

# 環境との調和に配慮した 農業農村整備を支援します

平成13年度の土地改良法改正により、農業農村整備事業では、**環境との調和に配慮した事業の実施が位置づけられました。**

水土里ネット鹿児島では、環境との調和に配慮した事業や環境保全活動を推進し、生態系調査から維持管理に至る各段階の環境配慮に関わる取り組みをトータルサポートします。

## ● 農村環境保全専門委員会

水土里ネット鹿児島では、平成17年度に鹿児島大学や農研機構などの学識者から構成される「農村環境保全専門委員会」を設置し、環境との調和や環境保全について学識者から助言を受け、環境保全に対する基本方針を定めることを目的として委員会を開催してきました。

平成22年度には、「環境配慮手引き」、平成28年には、「環境配慮事例集」を作成し、環境との調和への配慮の取組を推進しています。

しかし、事後評価（モニタリング）や順応的管理が行われていない等の課題が生じ、また、近年では、農業者の減少や大区画化など、生態系配慮を進めていく上での状況が変化してきたため、令和元年度から、農業農村整備事業における環境配慮や保全の在り方を再度見直し、**農村環境への配慮や保全活動の充実、それらを契機とした地域づくりの取組を促進させるため、委員会を見直し新たな活動を展開しています。**



環境保全専門委員会



トノサマガエル



アカハライモリ



ドジョウ

## ● 農村の自然環境の特徴

- 日本国土の約50%を占める広大なエリア
- 農作業など人が関与することで保全される二次的自然
- 農地、水路、樹林、ため池、道路などの様々な環境
- 日本の水田には、5,668種の野生生物が生息しています。
- 水田や水路などに生息する淡水魚の42%が絶滅危惧種に選定されています。
- 絶滅の恐れのある動植物が集中する地域の約60%が農村に分布しています。

(環境省自然環境局調べ)

農林水産省が取り組んでいる「今後の生態系配慮の方向性（提言）・生態系配慮に係る取組事例集」に本会の取り組みが紹介されました。<https://www.maff.go.jp/j/nousin/keityo/kankyo/teigen.html>

## 5 水土里ネットによる農業農村整備事業における環境配慮への支援

【鹿児島県土地改良事業団体連合会】（鹿児島県）

- 鹿児島県では、農業農村整備事業における環境配慮において、鹿児島県土地改良事業団体連合会（水土里ネット鹿児島）が大きな役割を果たしている。
- 調査段階から水土里ネットの技術者が地元に入り、生きもの調査や環境配慮対策の助言・指導などを行い、事業完了後においてもモニタリング調査や、学習会等のイベントを実施。
- 事業実施地区毎に設置される環境情報協議会にオブザーバーとして参加するほか、水土里ネット独自で「農村環境保全専門委員会」を設置し、専門家の助言を受けて環境配慮の内容を検討。
- 自主製作した「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」では、専門家による事後調査を実施し、整備後の維持管理や地元住民との関わり、順応的管理の考え方等について整理。
- 生き物調査の結果は、位置情報も含めて水土里情報システム（GIS）で管理し、今後の事業や市町村の農村環境計画のためにデータを蓄積。



### 【組織概要】

- ・ 設立：昭和33年  
(前身の「鹿児島県耕地協会」は昭和3年)
- ・ 会員数：43市町村、113土地改良区
- ・ 事業所数：本部、5事務所、3支部
- ・ 主な事業：会員に対する技術的指導・援助  
土地改良事業に関する教育及び情報の提供  
土地改良事業に関する調査及び研究  
環境との調和に配慮した事業の支援 等

### 活動開始前の状況・課題

- 事業計画・実施の現場では、事業計画の複雑化、多様化する地元ニーズへの対応、環境保全に関する地域の合意形成の難しさを痛感。
- ・ 事業計画段階で、必要とする地域の生態系に関する情報が少なく計画案の作成が困難な状況にあった。
- ・ 事業主体別に設置する「環境情報協議会」は、行政関係者・地元代表が主で、専門家が少ない。



鹿児島県

### 取組内容

- 水土里ネット内に環境専門部署を設置するとともに、水土里ネット独自の組織として「農村環境保全専門委員会」を設置し、助言・指導を実施。
- テーマを設け、「農村環境保全専門委員会」を年1～2回開催。
- 環境との調和に配慮した農業農村整備の支援内容  
農村環境計画の策定・調査、事業計画時点の簡易調査、環境情報協議会説明、採択後の生態系調査、地域への周知、生き物引っ越し、維持管理計画の策定・周知、モニタリング調査など
- 事業実施前や実施後のモニタリング調査は、調査費や設計費がつかないので、水土里ネットが独自（ボランティア）に実施。
- 施工後の維持管理や利活用を地域が受け入れてくれるまでの説明会・調整を繰り返し実施。

### 取組の効果

- 水土里ネットが関わる事業の環境配慮では、生態系調査段階から後の維持管理を念頭におき、農家の環境保全に対する関心醸成から維持管理までを支援しているため、事業実施後の維持管理も比較的順調に継続されている。

### ここがポイント！

- 水土里ネット鹿児島が継続的にきめ細かな地域のサポートを行うことが可能。
- 区画整理事業を専門に改良区とのパイプもある水土里ネットの職員が、学識者とともに調査を実施し、とりまとめを行うことで、学識者と農家、地域住民との間に立ち（橋渡しの立場）、環境や生物についてわかりやすく説明することや配慮施設の整備内容や折衷案などの提示に心がけ、環境配慮業務に取り組み姿勢が評価される。



そのほか、各市町村の「農村環境計画」「農村振興基本計画」の策定や、「生きもの引っ越し」などのサポートも行います。



問い合わせは、事業部農村整備課または最寄りの事務所・支部まで